

心電図検定対策講座

頻脈性不整脈を深読みする

名古屋大学医学部附属病院循環器内科 福島 大史

心電図検定において頻脈性不整脈は頻出かつ極めて重要なテーマである。一口に頻脈性不整脈といっても、発作性上室性頻拍、心房細動、心房粗動、心室頻拍、心室細動など多岐にわたり、変行伝導や副伝導路の関与を考慮すると分類は極めて複雑となる。

近年、SNS や YouTube 等で、マニアックな各種頻拍の鑑別法、頻拍起源の推定法、想定問題などが数多く共有されている。しかし、実際の心電図を前にすると、それらの知識を十分に応用できない場合も少なくないと思われる。頻拍中に P 波が明瞭でない場合、「本当に P 波が存在しないのか」「単に同定できていないだけなのか」と迷うことや、心室頻拍を疑いながらも確信が持てない経験は、多くの受験者が共有するところであろう。実際、実臨床と同様に心電図検定では、心電図のみから完全に判別することが困難な症例も少なくない。そのような状況下で求められるのは、単一の所見に依存して判断するのではなく、QRS 波の形態、電気軸、P 波と QRS 波の関係、発症・停止様式など複数の所見を積み上げ、「最も可能性の高い診断」を導く思考過程である。そのためには、確実に否定できる選択肢を消去していくことも有用である。心房頻拍や心房粗動を含めた上室性頻拍から心室頻拍まで、実際の心電図をもとに、鑑別の要点と混同しやすいポイントを解説する。